

ゴッホ「星月夜」

ゴッホは一八五三年三月三〇日、オランダ南部のプロート・ズンデルトで地方協会に勤める牧師の息子として生まれました。彼の絵は鮮烈な色彩、力強いタッチ、単純で、しかし謎めいたモチーフ、そして彼の基本的な主題に込められたメッセージは圧倒的な力で見るものに伝わってきます。「星月夜」はサン・レミの療養院の病室から明け方の東の空を見た記憶をもとに描いたとされています。しかし、中央の渦巻状のものは説明がつかないし、実際の風景のなかには村や教会はないといわれています。

この作品には、町の風景と塔のようなもの、そして夜空が描かれています。町は普通の住宅街というような感じですが、塔のようなものは木の枝がうねうねと曲がっているような感じで、普通の住宅街にある謎の塔がとても異質で不気味な雰囲気があります。夜空も月や星は光を放っているような感じで描かれています。中央にある白と青が混ざり緩やかに曲がっているものが描かれています。私は、これは風を描いているのではないかなと思いました。なぜなら、風の「ヒューヒュー」という擬音とこの緩やかなカーブがマッチしているような感じがしたからです。ゴッホはこの作品を普通の日常風景の中に異質で少し不気味な非現実的なものを描くことで自分が見た景色をそのまま描くのだと自分以外の人も描けるので説明がつかないようなものを描くことで自分が描いたと分かるようなオリジナリティ溢れる絵にしようと思ったのではないのかなと思います。

私がこの作品を選んだ理由は、夜空の色味が濃い青や白が少し入った青で塗られていたり、星や月の色も色が変わっていてそれぞれ明るさが変わって見えたり、夜空一つでも色の変化が楽しめるのが好きだったの

でこの作品を選びました。

中一のときもVTSをやりましたが、そのときは口頭だったので自分が上手く説明できなくてもなんとなくのニュアンスで理解してくれていたけど、今回は文章でまとめるので自分が言いたいことを上手く言語化しないとイケないのが大変でした。しかし、自分の伝えたいことを文章で伝えられるようにする練習になったので、とても大変でしたが達成感も得られました。

